

オンライン学習教材等を活用した 不登校支援

中間報告書

2024年12月29日
株式会社 城南進学研究社
山中 裕法

実証概要

毎年、増え続けている小中学校の不登校児童生徒数は全国に299,048人（令和4年度）。割合としては3.2%と言われており単純計算で1クラスに1名の計算となります。学校単位で計算すると対策が必要な数値になっているのが分かります。

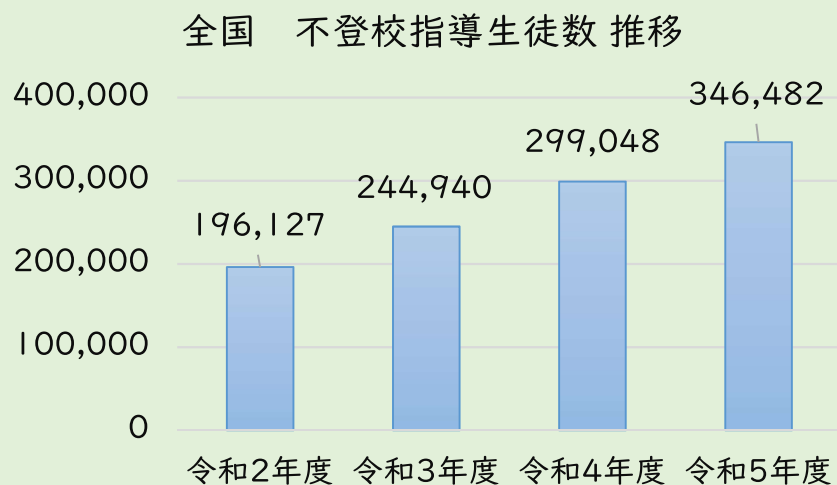
様々な理由によって学校に行けない、教室に入れない、ことによる学習機会の損失をなくし、学力維持や学びなおしができる環境を整えることで学習支援を行います。

支援策としては、学校にある1人1台端末などを使い、当社のオンライン学習教材を活用することで、個別最適な学びを提供することができます。

小学校1年生から中学校3年生まで9学年分の学習内容から自分のレベルやペースに合わせて学べる教材を使い、教育支援センター「きみつメイト」をフィールドに実証事業を行っています。

背景

全国小中学校の不登校児童生徒数推移は3年で1.78倍、
千葉県にクローズアップしても3年で1.82倍と激増しています。



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

使用教材：オンライン学習教材「デキタス」

学校の教科書に対応した教材で小学1年生～中学3年生までの
9学年分が学習できます。

特長①授業動画

全教科・全単元にアニメーションによる授業動画が
搭載されています。



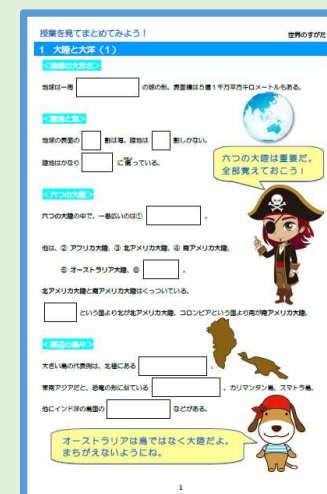
特長②演習問題

レベル別の「基本問題」と「チャレンジ問題」に加え
間違えた問題が自動的に蓄積され、解き直すことで
苦手克服できる「キミだけの問題」があります。



特長③専用ノート

授業動画にリンクしている専用ノートに書き込むことで
定着がグーンとアップします。



フィールド：教育支援センター「きみつメイト」

不登校支援を行う上で、支援を行う側と受ける側（児童生徒）の距離感はとても重要だと考えます。寄り添うための「ほどよい」距離感を熟知していて、経験豊富な人材が配置されている「きみつメイト」を実証フィールドにすることで児童生徒の気持ちを汲んだ支援や声掛けができます。

また、きみつメイトでは複数的人员で支援しているため、様々な角度や視点から意見が得られる点も実証に適していると考えました。

月別 利用人数と学習時間

利用月	利用人数	学習時間
5月	5人	7時間22分
6月	7人	4時間55分
7月	4人	2時間11分
8月	0人（夏休み期間）	
9月	6人	6時間22分
10月	3人	2時間33分
11月	3人	1時間49分
12月	2人	3時間27分
1月		
2月		
3月		

中間報告と教材の改善点

< 中間報告 >

現状、利用者数及び学習時間には月ごとにバラつきが見られます。オンライン教材の大きな利点は、時間と場所を選ばない点であることから、今後、きみつメイトでの活用だけでなく、自宅など他の環境での利用を促進することで、さらなる活用が期待できます。

また、一般的に学年が上がるにつれ、受験や定期テストといった明確な目標ができ、学習意欲が高まる傾向があります。そのため、今後は利用者の学年など、属性ごとに利用状況を分析することで、具体的な利用傾向や特徴等を把握できるようになると考えられます。

< 教材の改善点 >

離れた場所からでも児童生徒に「具体的な声掛け」を行える機能があれば、学習意欲や効果を高め、自己肯定感の向上にも繋がられると考えます。このことから、「デキタス」において、児童生徒が感じたことや考えたこと、また実践したことに対して「承認できる」コミュニケーション機能の付加を検討します。さらに、改善を進める際には、利用者の増加や利用頻度の向上によって、支援する側の業務負担が増えないよう配慮することが重要です。これにより、教材の利便性を高めるだけでなく、持続可能な支援を実現できると考えます。